知っていますか? たばこの害

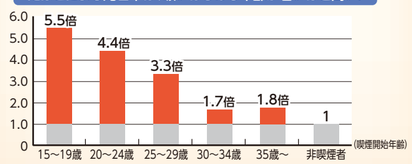
たばこの煙には、約4,000種類以上の化学物質が含まれています。そのうち、たばこの健康被害の原因となる有害物質は、現在分かっているだけでも200種類以上もあります。

発育期にある未成年者は、有害物質の影響を受けやすく、喫煙の開始年齢が低いほど、がんや心臓病にかかる可能性が高くなります。

また、未成年者が喫煙を経験すると、ニコチン依存症に陥りやすく、依存症が急激に進むことが明らかになっています。そのため、未成年者の喫煙は、法律で禁止されています。

たばこを吸う本人が直接吸い込む煙(主流煙)よりも、火のついたたばこの先から出る煙(副流煙)の方が、害になる物質が多く含まれているため、受動喫煙でもがんや喘息になる可能性が高いと言われています。

たばこによる死亡率は、吸いはじめる年齢が若いほど高い!



喫煙開始年齢と肺がん死亡率の関係　出典:平山　雄、1981(計画調査1966~1978、男)

知っていますか? 飲酒の影響

アルコールは、脳の神経細胞に影響を及ぼし、多量に飲酒すると、脳が縮んできます。脳に対するアルコールの影響は、未成年で特に強いことが知られています。飲酒開始年齢が低いほど、アルコール依存症になる人の割合が高くなります。

薬物の乱用は、法律で厳しく処罰されます

薬物乱用とは、覚せい剤などの禁止されている薬物やシンナーなどの化学物質を不正な目的や方法で使用することです。たとえ、一回使用しただけでも「乱用」にあたります。

「やせられる」「一度だけなら大丈夫」といったイメージは間違いで、実際は興奮や幻覚、意識障害などを引き起こし、脳や体がボロボロになる恐ろしいものです。

鳥取県では条例で「危険ドラッグ」の所持・使用・販売も全面的に禁止しています。

薬物乱用防止教室の開催について

鳥取県では、中学校・高等学校において、薬物乱用防止を目的とした教室を、年1回は開催するようにしています。

学校薬剤師や警察・指導員の方など多くの専門家の方の協力をいただきながら開催しています。

問合せ先　県教育委員会体育保健課　電話 0857(26)7527　FAX 0857(26)7542

1月24日~30日は『全国学校給食週間』です

生産者の方との交流給食(伯耆町)

全国学校給食週間は、学校給食の意義や役割について関心と理解を高め、学校給食の一層の充実を図ることを目的として定められました。学校給食を通じて食の大切さについて考えたり、食に関わる方々への感謝の心を育むよう、地域の特色を生かした献立や、食に関する様々な行事が予定されています。

(写真は昨年度の取組内容)

児童生徒が考案した献立(鳥取市)

学校給食に関する展示(倉吉養護学校)

問合せ先　県教育委員会体育保健課　電話 0857(26)7527　FAX 0857(26)7542

シリーズ 市町村教育委員会の取組紹介

鳥取県の各市町村(学校組合)教育委員会が行っている取組を紹介します。

岩美町　魅力ある学校づくり

岩美町では、平成13年度から、毎年100万円の校長裁量予算を交付しています。町内の3小学校と1中学校では、その100万円をもとに学校独自の教育活動を実践することで魅力ある学校づくりを進めています。

平成28年度の各校の取り組みの中から一つずつ紹介をします。

岩美南小学校では、「地域大好き」をテーマとして、敷地内にある畑や果樹園で農作物を育て収穫する農業体験を行っています。地域の方や高校生と関わりながらこの活動をすることで、地域の特産物を育てる苦労や収穫の喜びを体験しました。児童は、この活動を通して自分の住む地域の産業やそれを支える方々に誇りを持っていきました。

岩美北小学校では、「夢を持ち、人と人がつながること」をテーマとして、新人戦で鳥取県一位となった地元の岩美高校女子バレー部の部員と一緒に運動や遊びをしたり、練習についての話を聞いたりしました。自分たちの学校の先輩である高校生の運動能力の高さや努力した姿に触れ、感動しました。そして、自分たちもやればできるという気持ちや挑戦しようという意欲を持つことができました。

岩美南小学校

岩美北小学校

岩美西小学校

岩美中学校

岩美西小学校では、「地域に学ぶ・海に親しむ」をテーマとして、「海の学校」という体験活動をしました。「シュノーケリング」や「シーカヤック」など、普段体験できない活動を地域の方々や高校生の協力で行い、自分たちの住む地域の素晴らしさを体感していました。

岩美中学校では、「体験学習や交流を通して、生きる力や人間関係の形成能力を高めること」をテーマの一つとして、「赤ちゃんとのふれあい体験」を行っています。赤ちゃんが喜ぶことを自ら考えてしたりお母さんから話を聞いたりすることで、命そのものや命をつないでいくことの大切さを感じることができました。

これらの活動を通して、児童生徒が、自分の住む地域に自信と誇りを持っていることを感じながら、将来の岩美町を担う児童生徒を育成する学校ごとの教育活動の展開を支援しています。

問合せ先　岩美町教育委員会　学校教育係　【電話】0857-73-1301【FAX】0857-73-1533

若桜町　学校・地域と連携した学習支援教室

若桜町では、児童生徒の学力向上を支援するため、毎年、教育委員会主催の学習教室を開催しています。本年度は、夏休みの学習教室に引き続き、2学期から小学校〔国語・算数〕、中学校〔英語・数学〕の学習教室を土曜日も含め月3回程度行っています。昨年までは小学生の教室だけでしたが、今年は中学生の教室も開催し、基礎学力の定着を図っています。現在の参加者は、小学生26名、中学生7名。タブレットを使っての学習も取り入れており、真剣かつ楽しんで学習に参加してくれています。

毎回の学習の状況を指導主事と学習支援コーディネーター及び指導者の方々で話し合いながら子どもたちのためのよりよい学習教室になるようがんばっています。

本町の学習教室の特徴

【学校との連携】	本年度、学校と教育委員会をつなぎ、指導主事とともに学習教室の運営に携わる『学習支援コーディネーター』を1名配置。学校の要望や児童の状況、学習進度を踏まえた学習教室の運営に携わってもらっています。
【地域との連携】	教員OBや地域の学識経験者、環境大や鳥大の学生に指導者として活動していただいています。
【ICTの活用とWeb教材の活用】	学校に導入しているWeb教材を学習教室でも活用し、学習進度や子どものニーズにあったプリントを各自が印刷して学習に取り組んでいます。基本的な力を高めるドリル学習では、タブレットを使って学習しています。

問合せ先　若桜町教育委員会　総務学校教育係　【電話】0858-82-2213【FAX】0858-82-1045

シリーズ 県立高校の取組

八頭高等学校　地域を支える人づくり　八頭高愛し愛され運動

八頭高キャラクター「ヤズポッポ」

地域清掃活動

年々参加者が増えています

出張! 書道・箏曲・吹奏楽演奏

八東小学校開校式典

小学校スポーツテスト補助

郡家東小学校(体育コース2年)

今から4年半前の平成25年3月に、生徒会執行部が陸前高田市の被災地を訪問し、その時「自分たちは地域に何ができるのか。」ということを考え、地域の清掃活動が始まりました。開始年度は130名ほどの参加であったものが、昨年度はのべ409名もの生徒及びPTAの参加となりました。さらに、地域貢献活動は部活動における出張パフォーマンスや体育コースにおける地元小学校訪問等複数にわたり、「地域を愛し地域から愛される」活動は年々規模を拡大しています。

問合せ先　鳥取県立八頭高等学校
【電話】0858(72)0022　【FAX】0858(72)0113

シリーズ 鳥取県のエキスパート教員

鳥取県では、優れた教育実践を行っている教員を「エキスパート教員」として認定し、教員全体の指導力向上を図っています。今回は、米子市立後藤ヶ丘中学校の米原真吾教諭(認定分野:音楽)にお話を伺いました。

米子市立後藤ヶ丘中学校
米原(よねはら) 真吾(しんご)教諭

【感じて表現することの大切さ】

音楽の授業には、歌唱・器楽・鑑賞・創作の分野があり、教科書や資料から教材を選び、授業を進めています。私が一番大切にしているのは、生徒が教材に興味を持ち、その教材から感じたり考えたりしたことを、音や音楽を介してどのように聴いたり表現したりしようとしているのかということです。

音は楽譜になりますが、音自体は見えません。また演奏に最低限必要な情報は楽譜に書かれていますが、音楽の本当の意味での大切な部分は楽譜には書かれていません。この見えない部分を生徒とともに探り、共有していくプロセスが音楽の価値ある部分であり、感性の育みにつながると考えています。

【50分が勝負!】

授業者として、1時間の学習で生徒にどんな音楽の力をつけるのか、そしてどのように評価するのかを念頭におき、活動中の生徒の思いや意図が十分生きるように意識しています。

生徒には、間違っても構わないのでどんどん発言や表現を求めます。生徒の発言をより具体化するために、「言葉で説明すると?」「他の方法はない?」など問い直し、また逆に「どうしたらいいと思う?」など表現がさらに深まるような問いかけをし、よりよい活動になるよう心がけています。

また毎年、全国や中四国の研究会に参加させて頂いて、学んだことを実践し、生徒の学びに活かせるようにと努めています。

【生涯につながる音楽の授業を目指して】

卒業しても、音楽は生徒の生活の身近に存在するものであり、生活にも深い関わりがあります。人は音楽を聴いたり、歌ったり、演奏したり、様々な方法で感じ、表現します。音楽を愛し積極的に楽しめるような人生は素敵ですし、心が豊かになると思います。

「音楽って楽しいな」「この曲を歌ってみたいな」「この音楽を聴くとどうしてこんな気持ちになるんだろう」など、生徒自身が自ら音楽を深めていくことができる授業づくりを、これからも目指していきます。

問合せ先　県教育委員会小中学校課　【電話】0857(26)7935【FAX】0857(26)8170
http://www.pref.tottori.lg.jp/shouchuugakkouka/

シリーズ　プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!

第27回 弥生時代の犬の話

今年も残すところあとわずか。来年は戌(いぬ)年、かわいい犬の絵をデザインした年賀状の準備を始めた方もいらっしゃるでしょう。

犬はペットとして身近な動物ですが、人間と犬が一緒に暮らし始めたのはいつ頃のことでしょうか?日本各地の縄文時代の遺跡から犬の骨が見つかっていることから、日本ではなんと数千年の昔から、人間と犬はともに暮らしていたことがわかります。

銅鐸に描かれた犬とイノシシ
※梅原末治『銅鐸の研究』(昭和60年木耳社より復刊)より引用

縄文時代に続く弥生時代でも、犬は身近な動物でした。「地下の弥生博物館」と呼ばれる史跡青谷上寺地遺跡(鳥取市青谷町)からは、350点以上(少なくとも20匹以上)の犬の骨が見つかっています。お墓に埋められていた骨もあったことから、人間の大切なパートナーとして、青谷の人々と一緒に暮らしていたのでしょう。

青谷上寺地遺跡から見つかった犬の頭骨
※井上貴央氏提供

青谷上寺地遺跡では、矢の先が刺さったり、解体されたことがわかるイノシシやシカの骨も見つかっているので、狩りを盛んに行っていたようです。香川県から見つかったといわれる銅鐸に犬を使ったイノシシ猟の場面が描かれていますが、青谷上寺地遺跡の犬たちもこの絵のように、猟犬として活躍していたのかもしれません。狩りを成功させた弥生人のまわりを、しっぽを振りながら歩き回る犬の姿が目に浮かびます。

問合せ先　県教育委員会文化財課　【電話】0857-26-7934　【FAX】0857-26-8128